

「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの 改訂に関する調査研究



一般社団法人
日本歯科医学教育学会
Japanese Dental Education Association

目 的

本事業では、コアカリの改訂に向けて、全国歯科大学・歯学部における歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下コアカリという）の実施の現状分析を行うとともに、海外動向などの調査研究を実施（R3年度実施予定）することで、コアカリ改訂素案作成のための資料を収集し、素案を作成する。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、歯学教育の停滞や教育方略の見直しなど外的要因に対して対応せざるを得なかった。

そのため、歯学教育をどのような工夫で担保しているかなど、歯学教育の現況とコロナ禍での教育方略についての調査を行うとともに、コアカリの教育効果の検証調査を、臨床研修指導歯科医と大学卒業直後の研修歯科医を対象に行った。



報告の内容

- ✓ 調査研究チームについて
- ✓ 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査の概要
- ✓ 令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査の概要
- ✓ 令和2年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査の概要
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う

令和2年度の講義等の実施状況調査の概要

- ✓ アンケート結果からの提言

調査研究チーム

構成員

氏名	所属	専門領域
上田 貴之	東京歯科大学	歯科補綴学、老年歯科学
岡田 明子	日本大学歯学部	口腔診断学 歯科麻酔学
○河野 文昭	徳島大学	歯科補綴学 総合歯科学
神田 拓	広島大学	口腔外科学
斎藤 隆史	北海道医療大学	歯科保存学
關 奈央子	東京医科歯科大学	教育・国際
田口 則宏	鹿児島大学	歯学教育 総合歯科学 歯科補綴学
田村 文誉	日本歯科大学	衛生、摂食・嚥下 地域連携
照沼 美穂	新潟大学	口腔生化学
長谷川 篤司	昭和大学	歯科保存学 総合歯科学
平田創一郎	東京歯科大学	社会歯科学
森田 学	岡山大学	予防歯科学・感染対策

協力者

氏名	所属
石田 達樹	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
林 誠	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与
高橋 礼奈	文部科学省高等教育局医学教育課技術参与

○ 座長

構成員：12名、協力者：3名

調査研究WG

W G	
カリキュラム評価WG	歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査
コロナ禍での教育方略調査WG	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査
学習者評価＋指導歯科医の評価WG	令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査 令和2年度歯科医師臨床研修 修了者アンケート調査
感染症教育WG	感染症教育に関する調査

W G	
カリキュラム評価WG	○田口則宏、照沼美穂、上田貴之、關 奈央子、森田 学、林 誠
コロナ禍での教育方略調査WG	○平田創一郎、神田 拓、斎藤隆史、岡田明子、林 誠
学習者評価＋指導歯科医の評価WG	○長谷川篤司、田村文誉、河野文昭、石田達樹、高橋礼奈
感染症教育WG	○森田 学、岡田明子

○:主査

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

➤ 回答対象の時期および調査時期

令和2年12月現在の情報について、令和3年2月に調査を行った。

➤ 調査対象

全国29歯科大学・歯学部

➤ 調査方法

記名式質問紙調査法。

エクセルファイルをメールにて各施設へ送信し、回答を依頼した。

➤ 調査内容

- カリキュラム全般
- 一般(教養)教育への影響
- 平成28年度改訂版コアカリ導入による教育内容及び方略への影響
- 臨床実習導入科目(シミュレーション教育など)への影響
- 診療参加型臨床実習への影響
- 学生の国際交流への影響
- 学生の学修評価への影響
- 授業評価方法等への影響

➤ 回答率

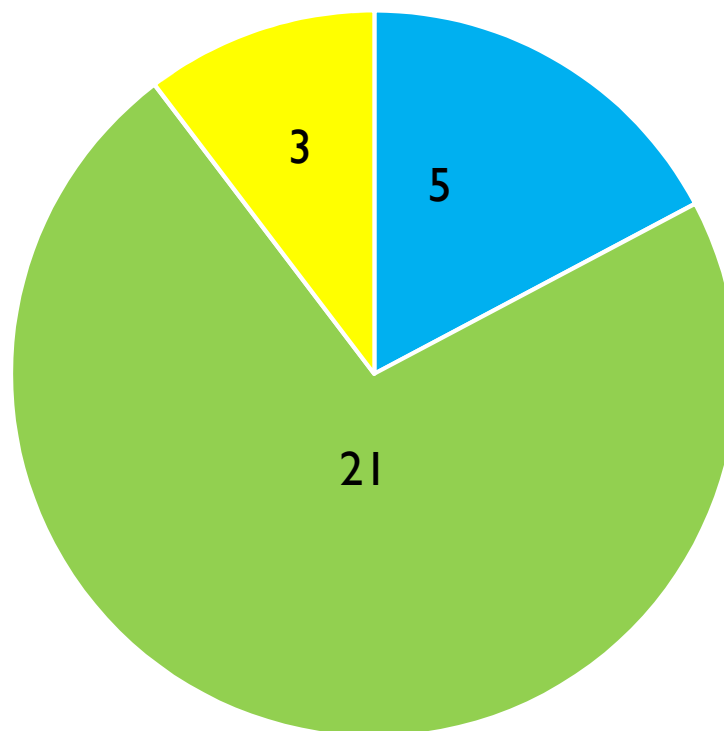
29歯科大学・歯学部中、全29施設より回答が得られた。(回答率:100%)

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

【問1 カリキュラム全般】

1-A. 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの扱いについて

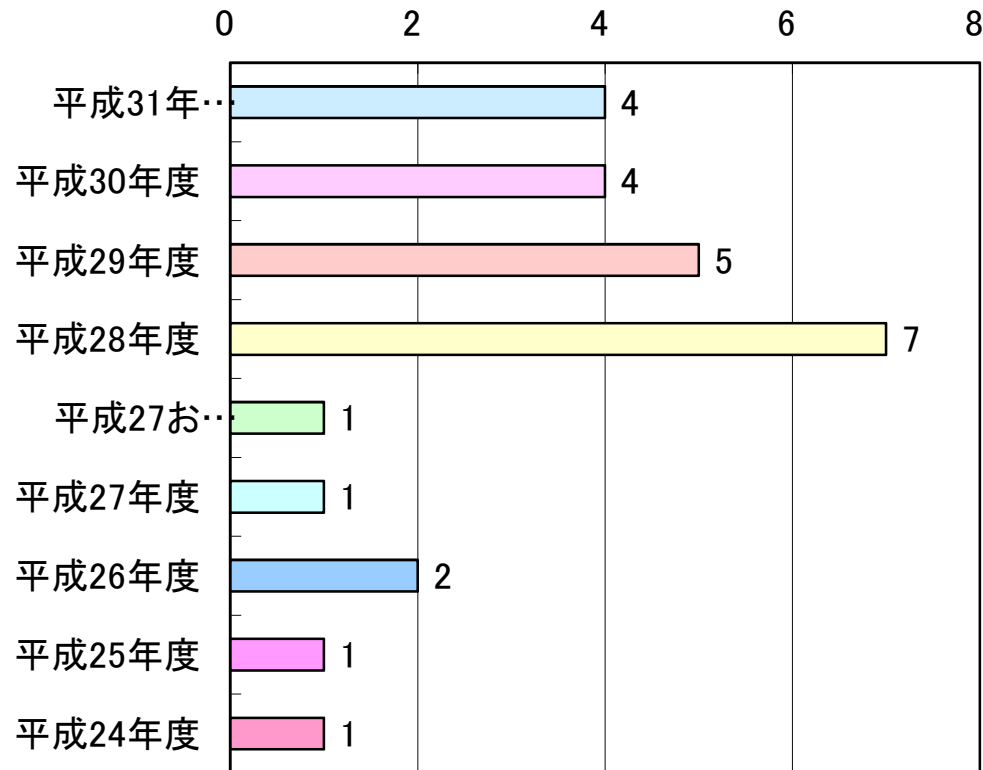
1) 平成28年度改訂版コアカリが導入されたことによって、貴学では学士課程教育のカリキュラム改訂を行いましたか



■ 全面的に行った ■ 部分的に行った ■ 行っていない

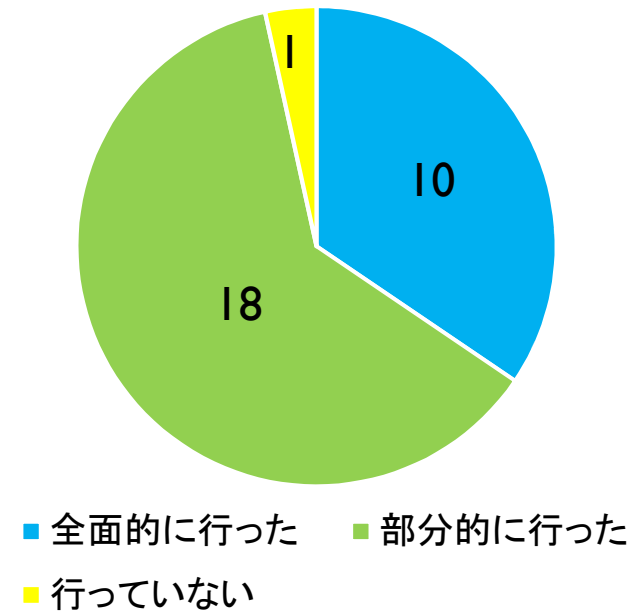
歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

3)「全面的に行った」また「部分的に行った」場合、改訂したカリキュラムの対象者は何年度入学生からですか



1-C. シラバス

1)平成28年度改訂版コアカリが導入されたことによって、シラバス記載内容の修正を行いましたか

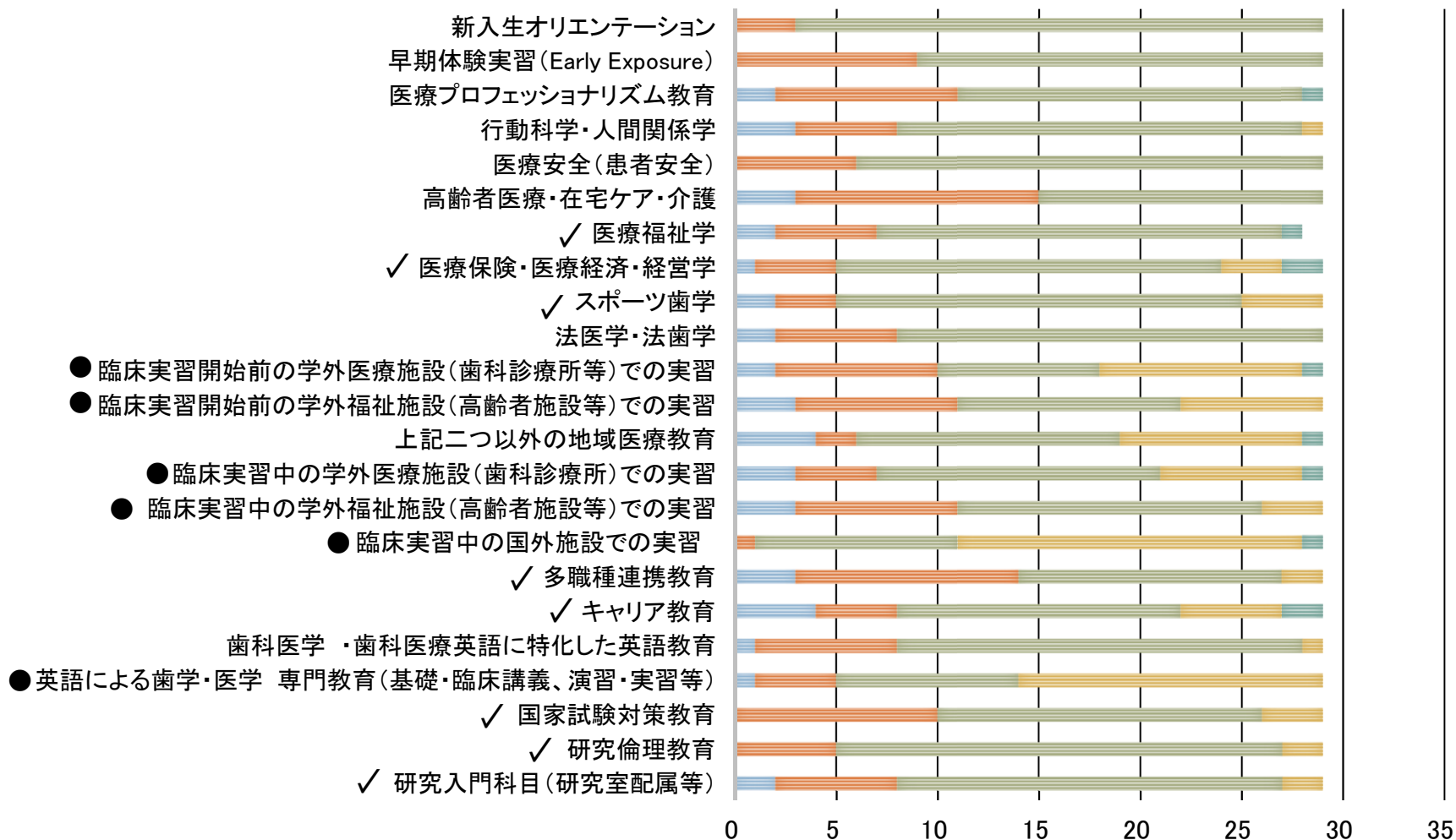


歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

【問3 平成28年度改訂版コアカリ導入による教育内容及び方略への影響】

以下の内容は、平成28年度改訂版コアカリが導入されたことによって、どのような変化がありましたか。

- 新規に追加・実施した
- もともと実施されていたが内容が変化した
- もともと実施されており、変化はない
- もともと存在せず追加・実施も行っていない
- その他

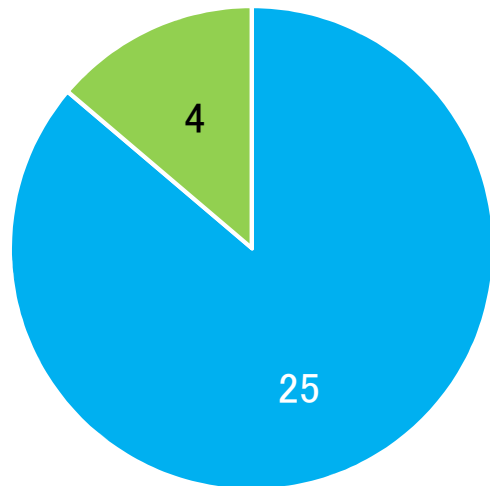


歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

【問5 診療参加型臨床実習への影響】

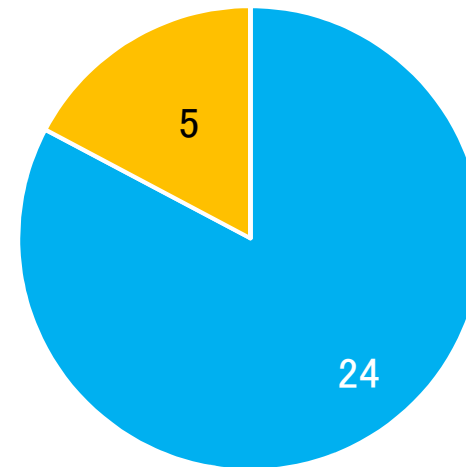
*「診療参加型臨床実習」とは：歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、患者の同意を得て、指導歯科医のもとで実際の歯科医療に携わり歯科医行為を行う臨床実習

5-A. 診療参加型臨床実習の導入状況は



■ 全面的に導入 ■ 部分的に導入
■ 導入していない

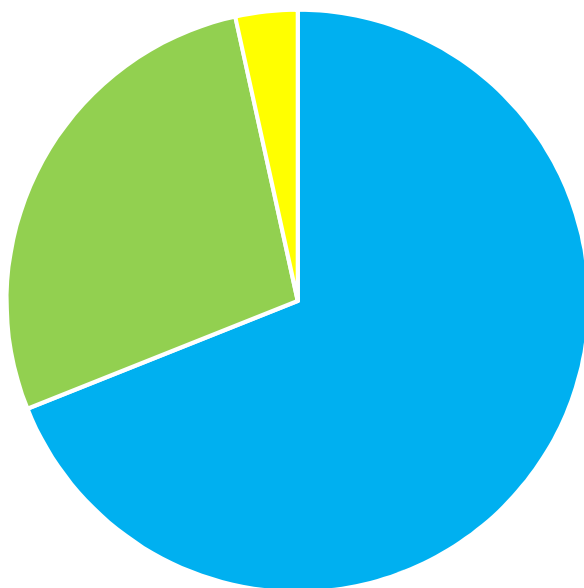
5-C. 平成28年度改訂版コアカリに記載されている「臨床実習の内容と分類」の活用状況について



■ 全面的に活用 ■ 部分的に活用
■ 活用していない

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

5-D. 「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドラインー歯学教育モデル・コアカリキュラム(平成28年度改訂版)準拠ー(案)」の活用状況について

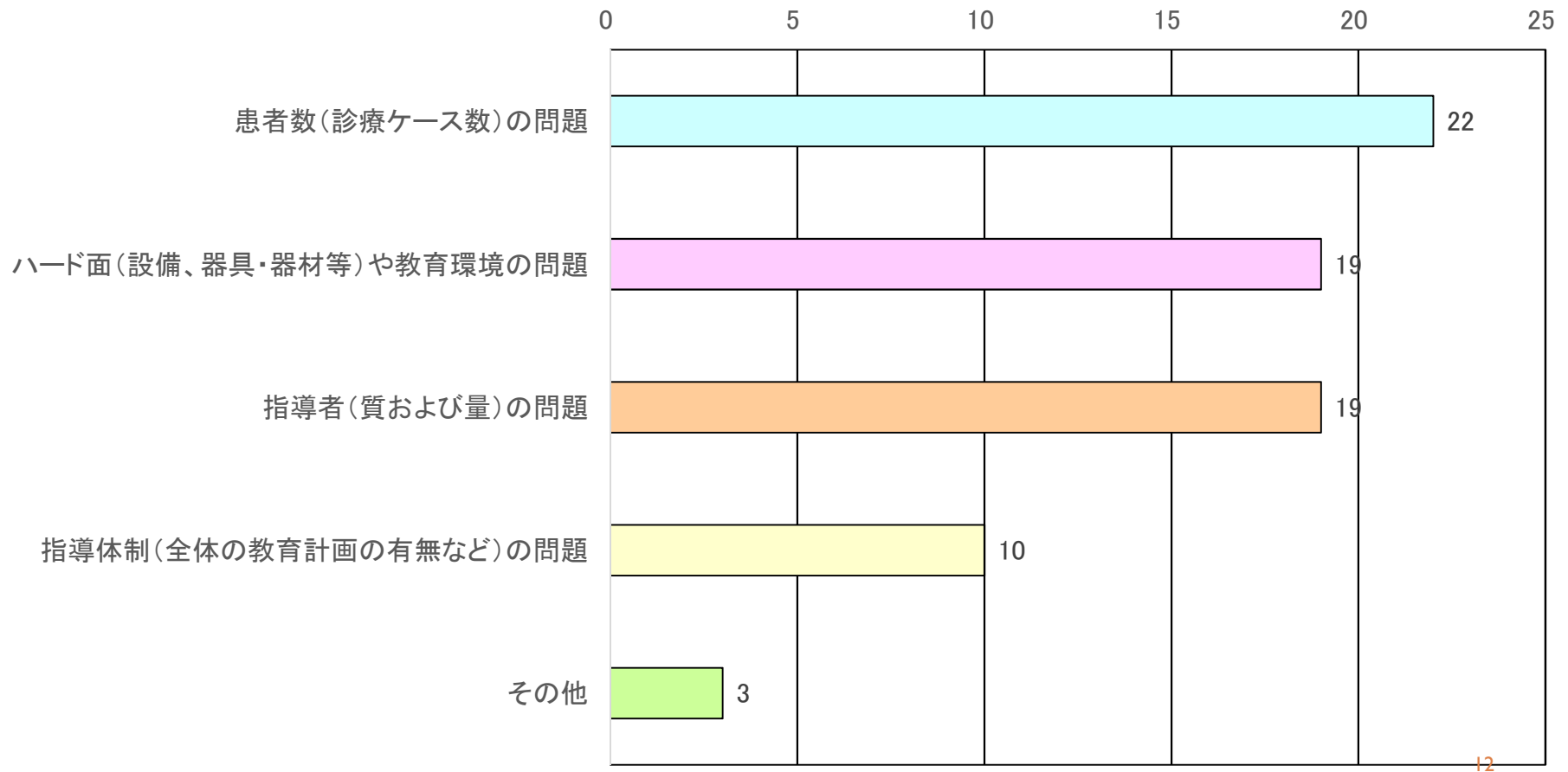



- 全面的に活用
- 部分的に活用
- 活用していない

回答内容	回答数
①全面的に活用	20
②部分的に活用	8
③活用していない	1

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

5-I. コロナ禍になる以前において、診療参加型臨床実習実施上で貴学で抱えている問題点はどれですか(複数回答可)





まとめ

- ✓ 平成28年度改訂版コアカリの導入により、大部分の施設でカリキュラムの見直しが行われており、その改訂の時期は、平成28年度が最も多く、次いで平成29年以降であった。
- ✓ シラバスの内容の見直し内容は、改定版コアカリに準拠のための教育内容の修正や科目の追加・廃止、開講時期、授業時間の変更等が上げられた。
- ✓ 診療参加型臨床実習は、29施設中25施設で全面導入、4施設で、部分的導入されている。コアカリのG領域の「臨床実習内容と分類」は、全ての施設でこれを参考に臨床実習のケースを決めていた。
- ✓ 「診療参加型臨床実習のためのガイドライン(案)」は、1施設を除いて利用されていることがわかった。
- ✓ 診療参加型臨床実習実施上の課題は、「患者の確保」、「設備や教育環境などのハード面」³、「指導歯科医の質や量の問題」、「指導体制」が上げられた。

令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査

➤ 回答対象の時期および調査方法

これまでに指導した研修歯科医に対して、令和3年2月に調査を行った。

➤ 調査対象

歯科大学・歯学部の附属病院・附属診療所で、臨床研修に7年以上携わっている指導歯科医(各施設3名)と、これ以外の研修施設で臨床に7年以上携わっている指導歯科医 1名

➤ 調査方法

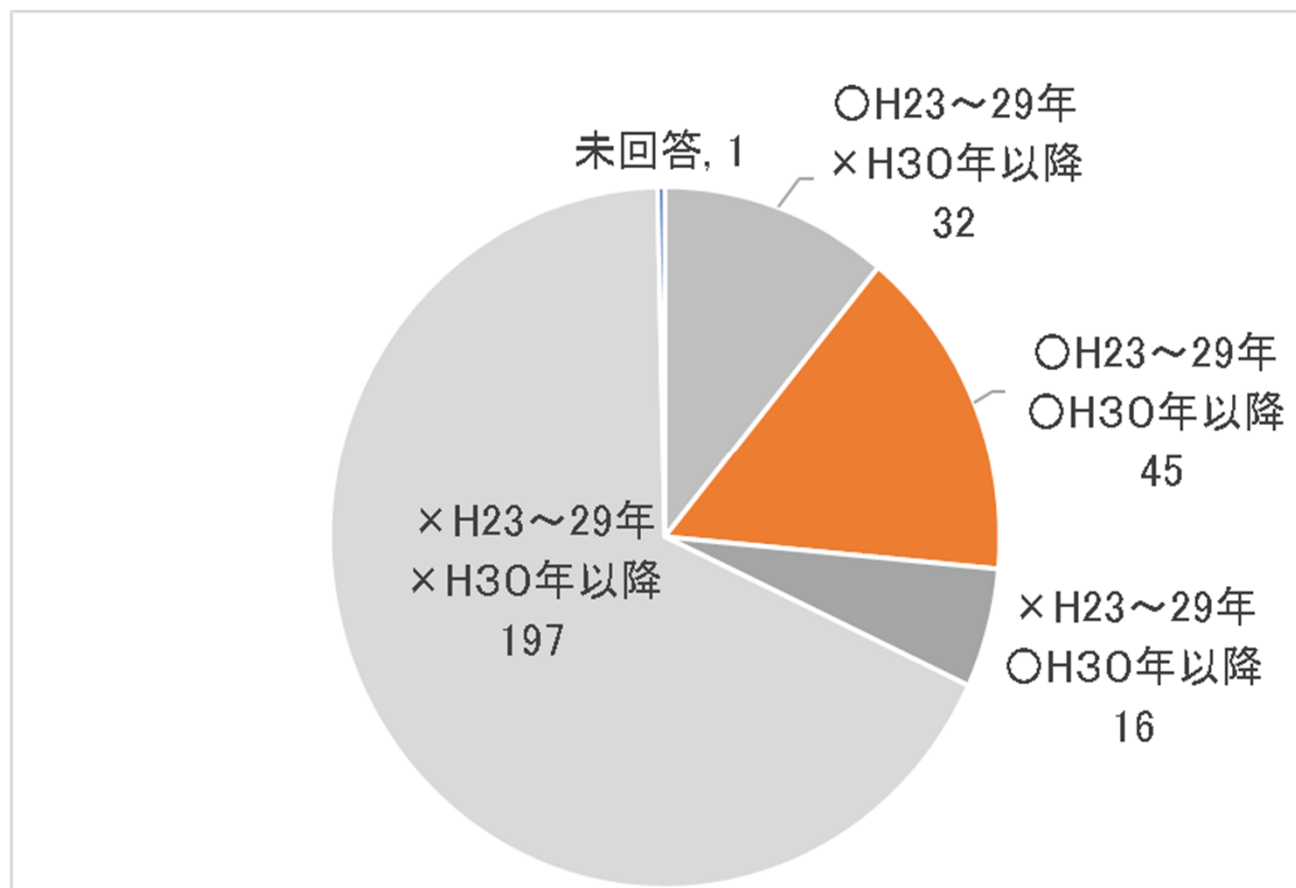
記名式質問紙調査法。厚生労働省歯科医師臨床研修プログラム検索サイト(D-REIS: Electronic Information System for Dental Resident)に公開されている全国の単独あるいは管理型臨床研修施設に対してアンケート用紙を郵送して、分配、記載、収集、返送を依頼した。
特に各管理型施設の協力型研修施設に関しては、施設数等が把握できなかったため、管理型研修施設に一任した。

➤ 調査内容

- 回答者所属
- 回答者の年齢、研修指導経歴
- 研修歯科医の受入れ経験
- コアカリの認知度と入手法
- 平成22年度改訂版コアカ리를学んだ学生の評価
- 今後の卒前(歯学部)教育において強化した方が良いと思われる項目

令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査

問3 貴施設の研修歯科医の受け入れ状況について

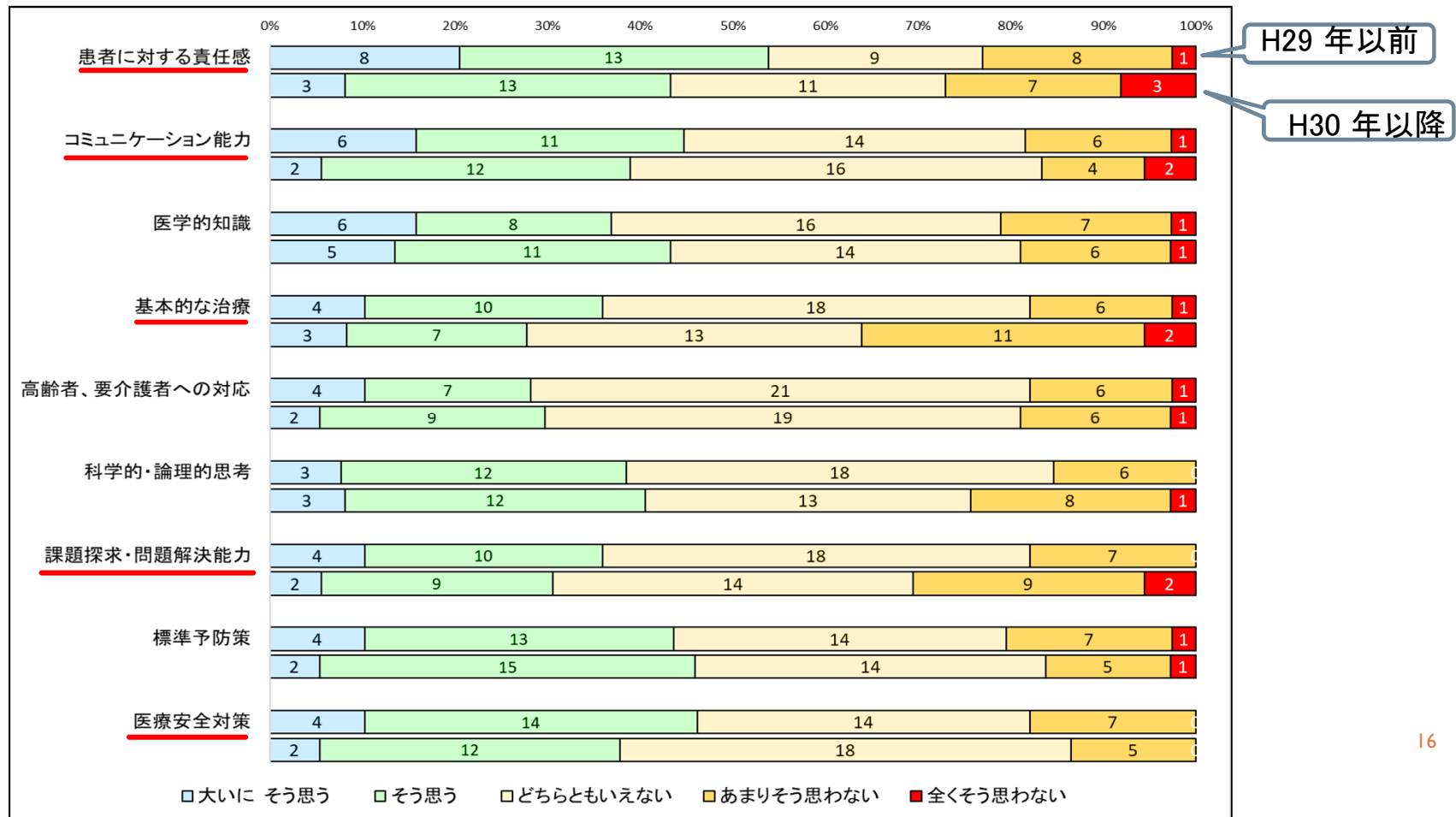


令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査

問6 平成29年(2017年)度以前に入職した研修歯科医と、平成30年(2018年)度以降に入職した研修歯科医の以下の9項目に関する「研修開始時点での能力」を以下の評価クライテリアを基準に5段階で評価して、下記の表の回答欄の当てはまる数値に○をつけて下さい。

※厳密に平成30年度の前後ではなく、その時期あたりを対象とした趨勢の変化をお答えください。

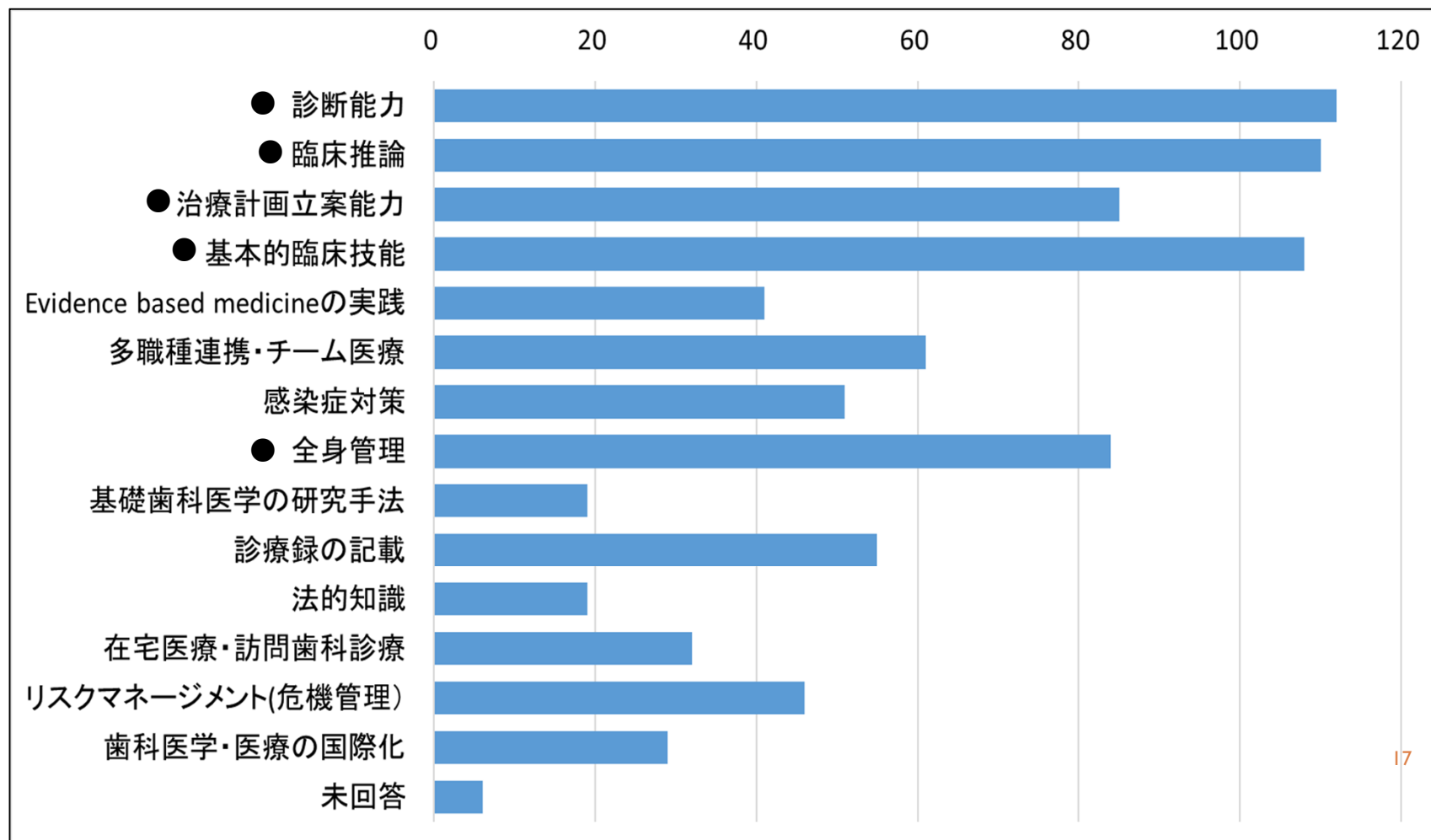
問3で「平成23～29年度、および平成30年度以降の期間の両方で研修医を担当した指導医」45名の評価を使用。



令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査

問8 今後の卒前(歯学部)教育において、強化した方がいいと思われる項目を以下から選んでください。(記入欄に3つまで○を入れてください)

※は当該項目の発展例として臨床研修、生涯学修における内容なども含みます。問8、問9は平成22年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムに拘らずにお答えください。



令和2年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査

➤ 回答対象の時期および調査方法

卒業時のコアカリの学修項目の修得状況について、令和3年2月に調査を行った。

➤ 調査対象

令和3年3月末までに歯科医師臨床研修を修了するすべての臨床研修歯科医師

➤ 調査方法

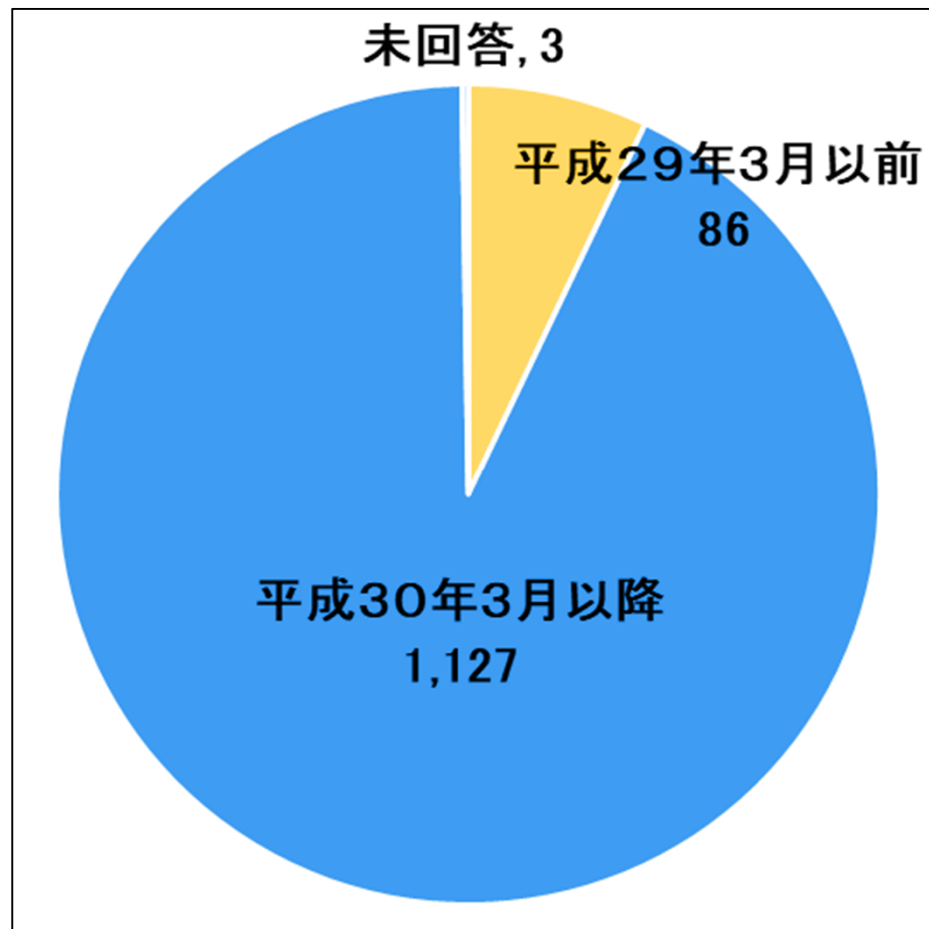
記名式質問紙調査法。厚生労働省歯科医師臨床研修プログラム検索サイト (D-REIS: Electronic Information System for Dental Resident) に公開されている全国の単独あるいは管理型臨床研修施設に対して定員分のアンケート用紙を郵送して、分配、記載、収集、返送を依頼した。

➤ 調査内容

- 回答者の卒業大学
- 回答者の卒業時期
- 卒業校の診療参加型臨床実習の充実度の評価
- 平成22年度改訂版コアカリで変更された課題の自己評価
- 卒業大学の卒前(歯学部)教育についての意見
- 平成22年度改訂版コアカリで強調された28課題の修得の自己評価
- 今後の卒前(歯学部)教育において強化した方が良いと思われる項目

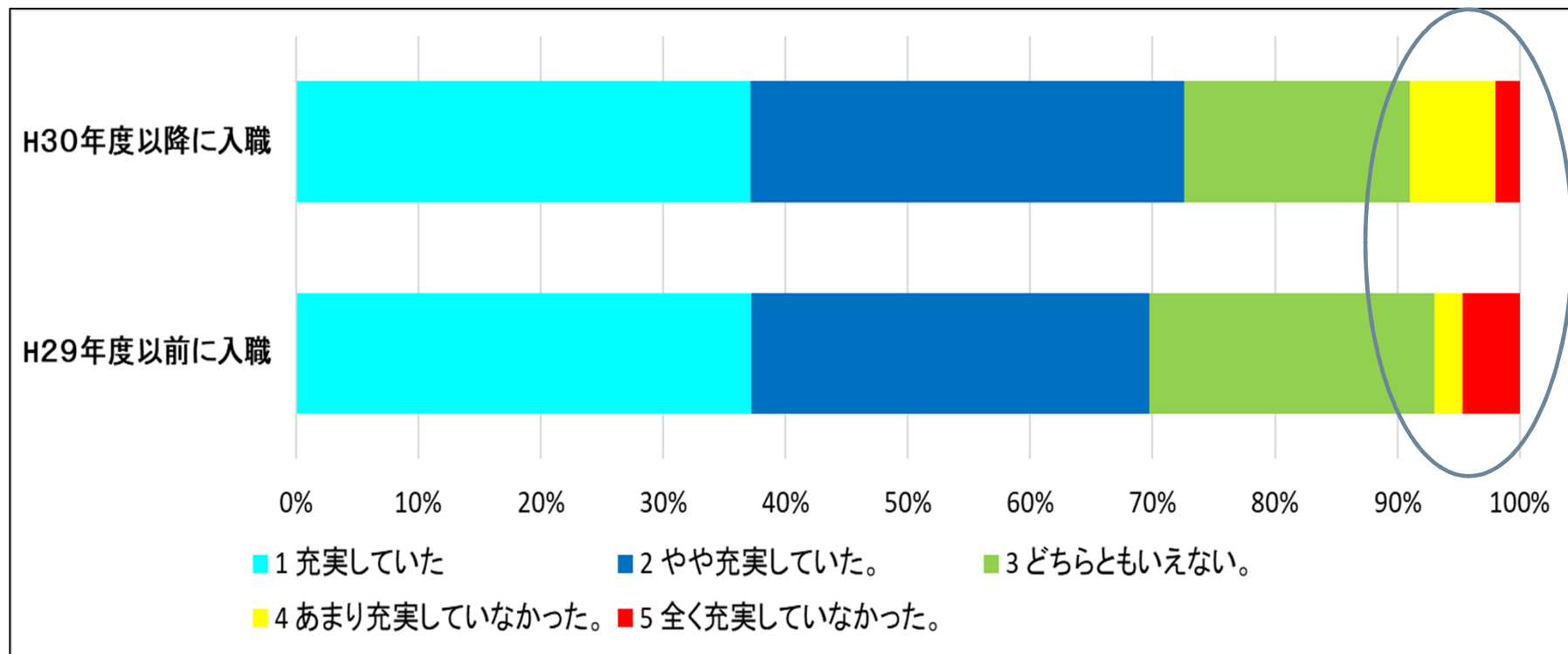
令和2年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査

問2 あなたが歯学部を卒業したのはいつですか。



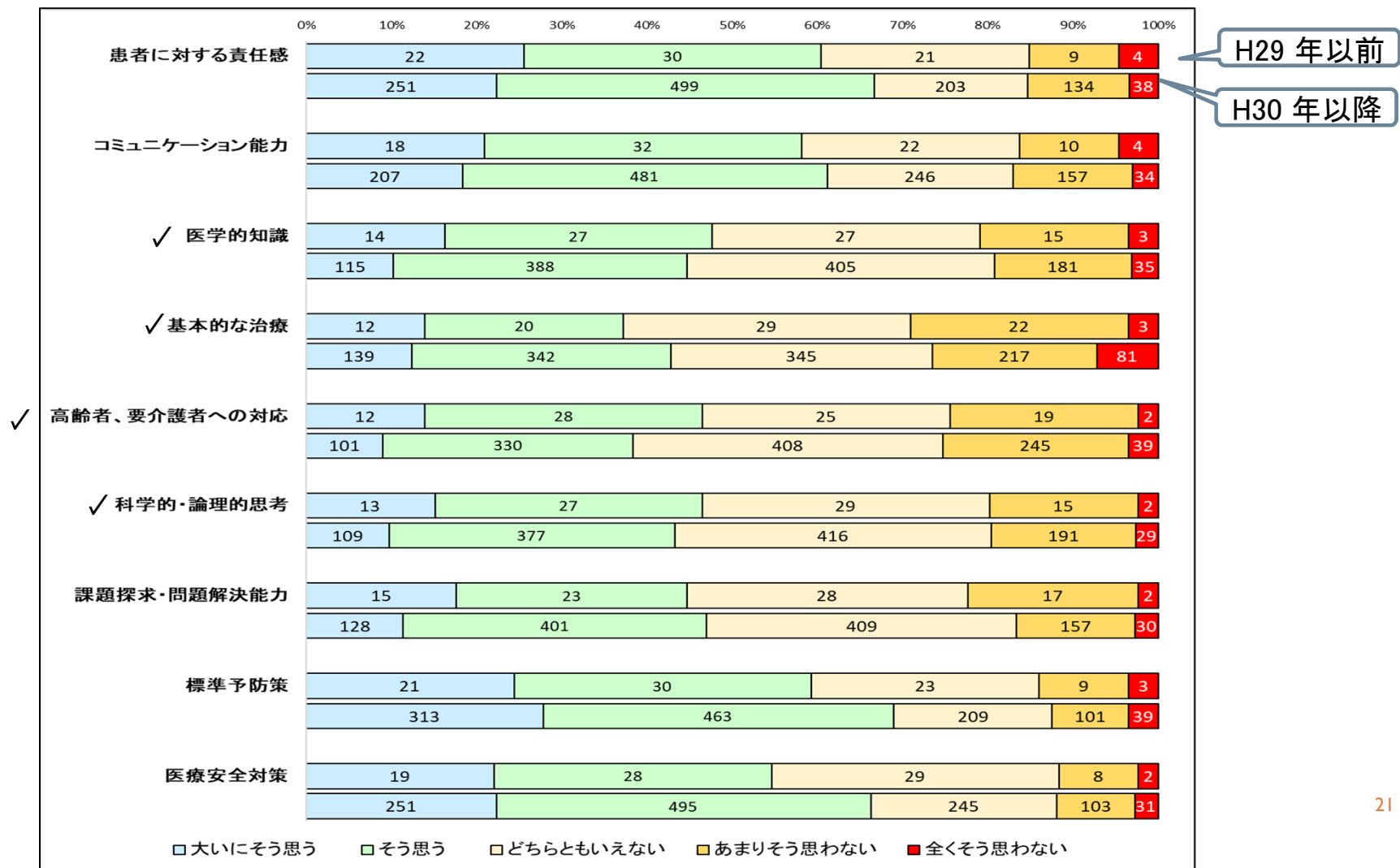
令和2年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査

問3 あなたが卒業した大学(歯学部)では、診療参加型臨床実習は充実していましたか。



令和2年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査

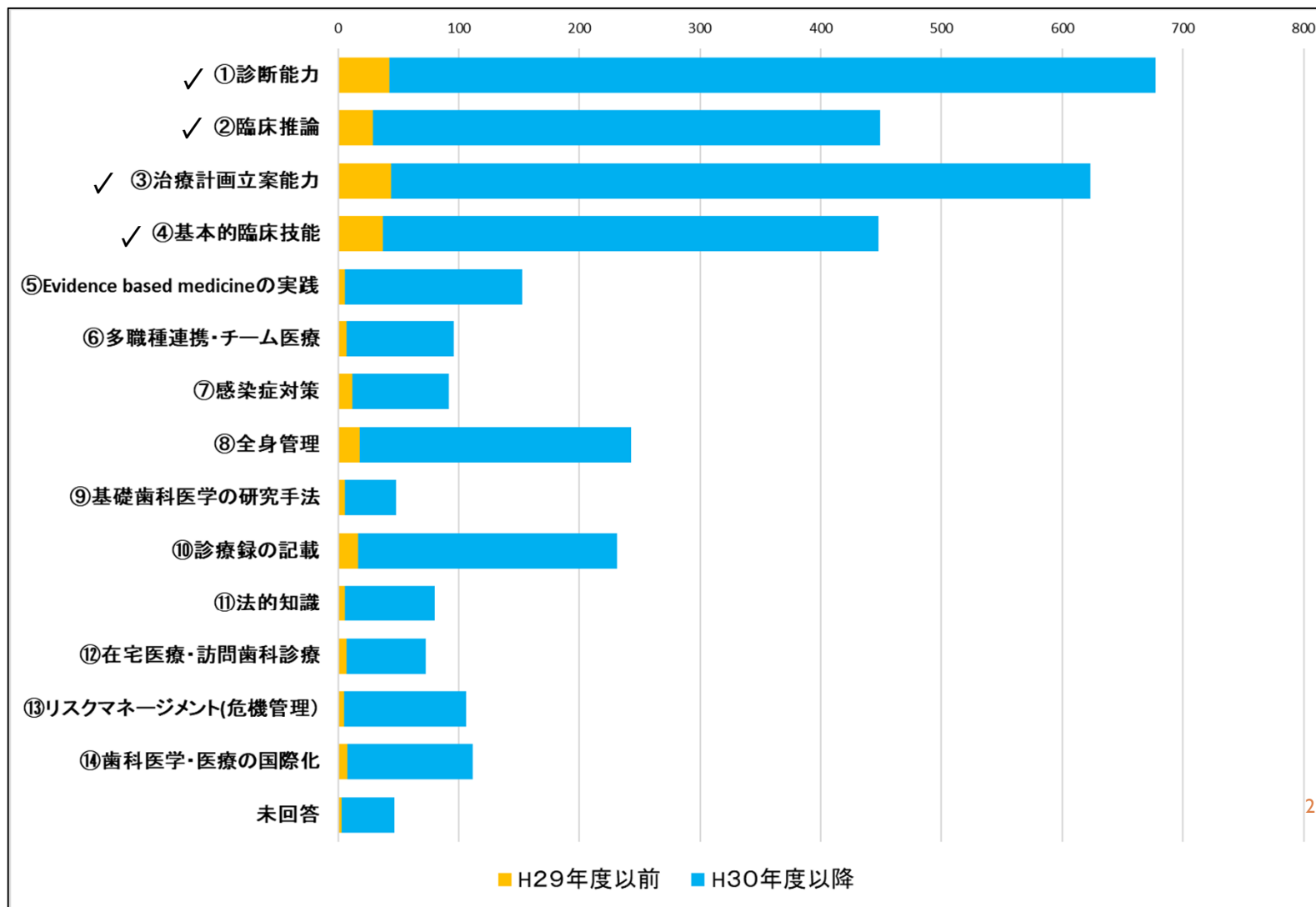
問4 あなたの「臨床研修開始時点での能力」に関する9項目について、以下の評価クライテリアを基準に5段階で自己評価をしてください。



令和2年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査

問9 今後の卒前(歯学部)教育において、強化した方がいいと思われる項目を以下から選んでください。(記入欄に3つまで○を入れてください)

※は当該項目の発展として臨床研修、生涯学修における内容なども含む



指導歯科医・研修歯科医のアンケート調査のまとめ

- ✓ 現在の研修医の有する「歯科に関する知識」の向上は、多くの意見から明らかであると考えられる。しかしながら、継続的かつ大きな課題として、診療参加型臨床実習の質的、量的不足を指摘する意見は多く見られた。
- ✓ 一口腔単位で口腔内を評価して、疾患発現の原因やプロセス、悪化因子となるリスクを抽出して、「総合治療計画の立案」に繋げる教育や、「診療録の記載」なども卒前教育にある程度含めて欲しいという意見も散見された。
- ✓ 平成28年改訂版モデル・コア・カリキュラムで「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」で示された9項目の修得は未だ十分でない。さらに、医療倫理教育および医療プロフェッショナリズム教育、加えてコミュニケーション教育の強化を望む意見も見られた。
- ✓ 超高齢社会のニーズとして、高齢者を含む要配慮者に対して歯科医療を提供するために、「医学的知識」のさらなる強化も求められており、平成28年度改訂版の改訂の概要で示された点に一致している。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査

➤ 回答対象の時期および調査時期

対象とするカリキュラムは令和2年度(令和2年4月～令和3年3月)とし、令和3年2, 3月については予定を回答してもらった。調査期間は令和3年1月29日～2月19日とした。

➤ 調査対象

全国29歯科大学・歯学部

➤ 調査方法

記名式質問紙調査法。

エクセルファイルをメールにて各施設へ送信し、回答を依頼した。

➤ 調査内容

- I 講義
- II 基礎系科目の実習・実験
- III 人体解剖実習
- IV 臨床基礎実習(シミュレーション実習)
- V 臨床実習(診療参加型臨床実習を除く)
- VI 診療参加型臨床実習
- VII 感染症教育(感染症対策を含む)の拡充

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査

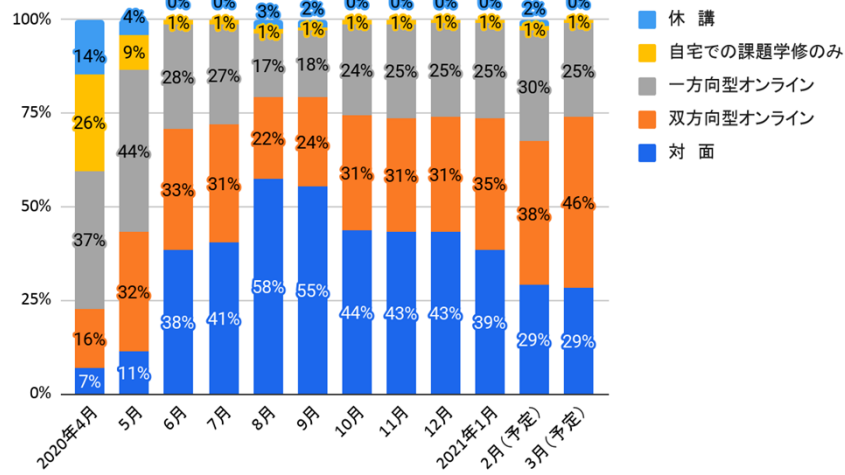
➤ 回答率

29歯科大学・歯学部中、全29大学より回答が得られた。(回答率:100%)

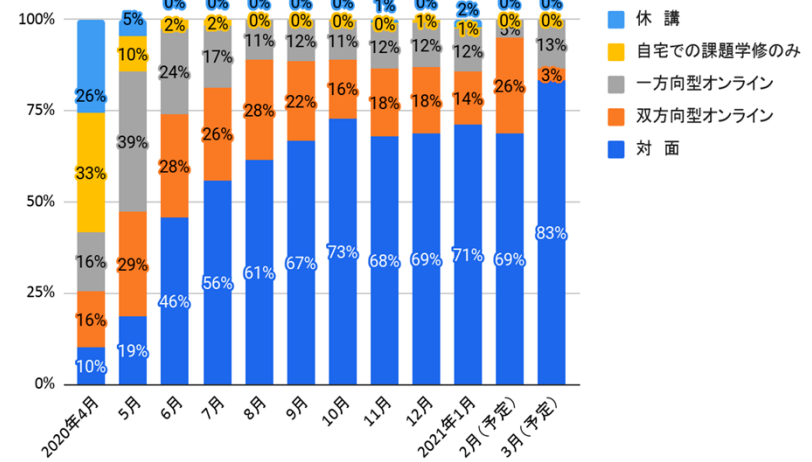
ただし、Ⅶ 感染症教育(感染症対策を含む)の拡充のみ一部未回答のため、有効回答数28(有効回答率96.6%)であった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査

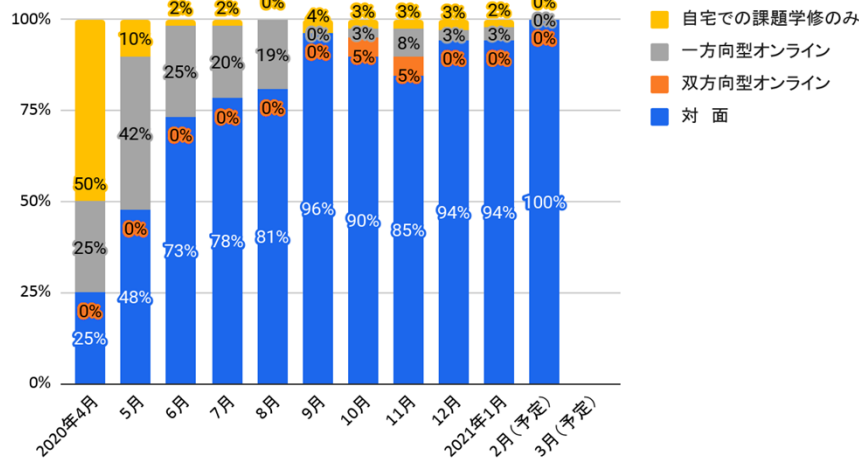
I 講義の実施方法 全大学



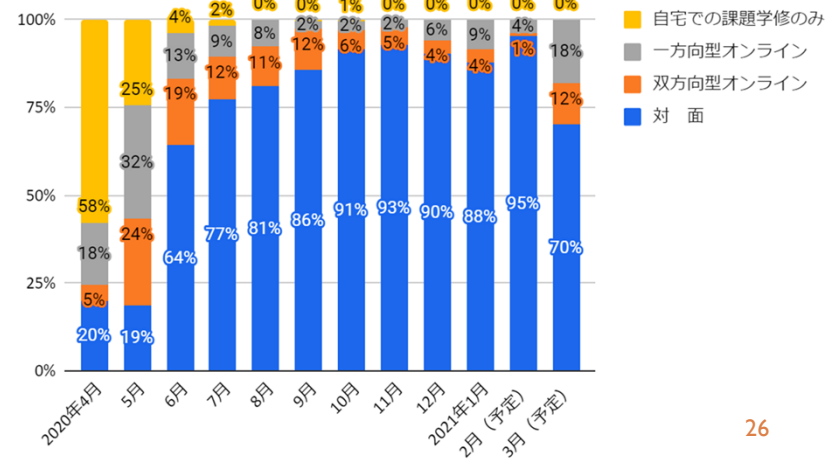
II 基礎系科目の実習・実験の実施方法 全大学



III 人体解剖実習の実施方法 全大学

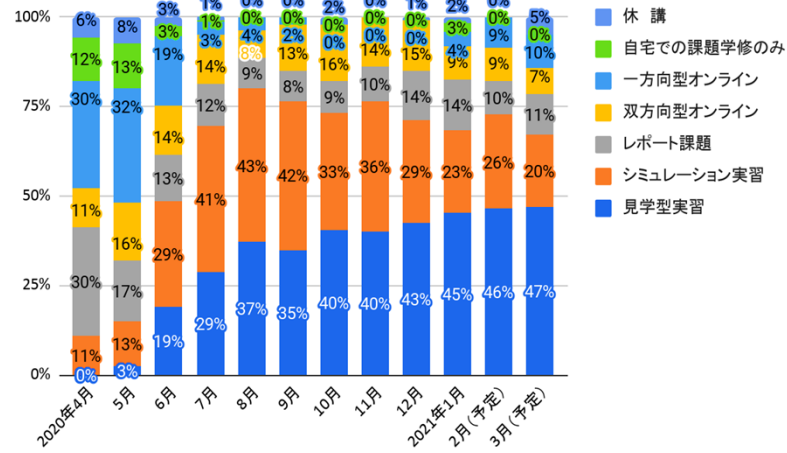


IV シミュレーション実習の実施方法 全大学

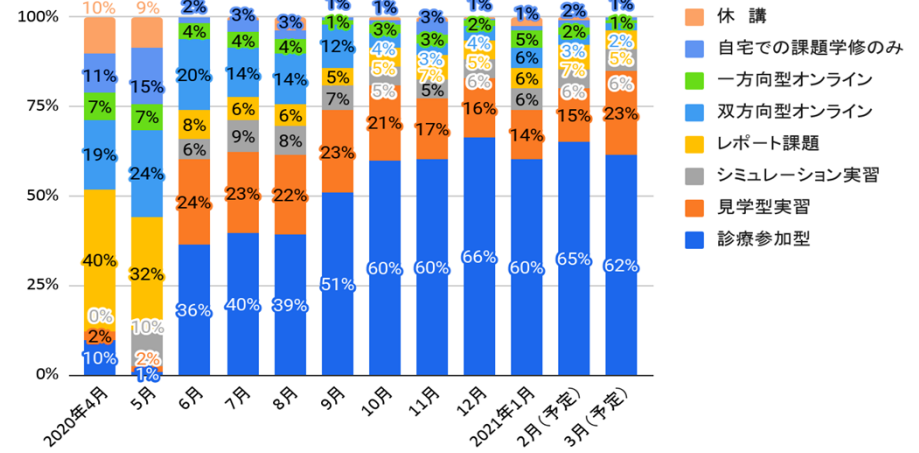


新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査

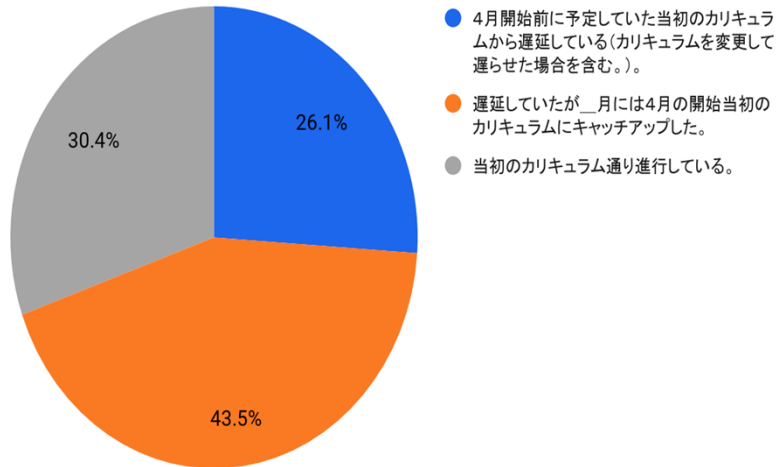
V 臨床実習（診療参加型以外）の実施方法 全大学



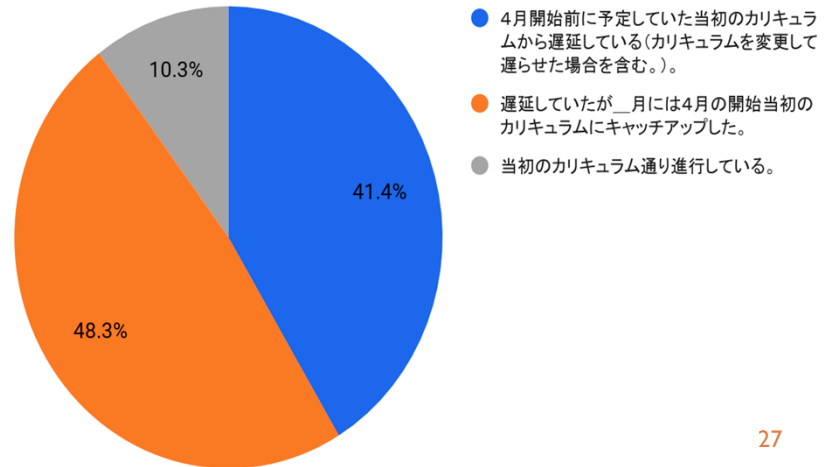
VI 診療参加型臨床実習の実施方法 全大学



V 臨床実習（診療参加型以外）の進行状況 全大学



VI 診療参加型臨床実習の進行状況 全大学



アンケート調査からの提言①

✓ 学修目標列記主体から学修方略、評価の例示の記載の追加の検討

多くの施設では多様なニーズを踏まえた様々な教育内容および学修方略の見直しがコアカリ改訂を契機として行われているが、対応できない施設も散見される。

✓ Student Dentistの法整備による「臨床実習の内容と分類」および「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン(案)」の改訂

コアカリ改訂により診療参加型臨床実習は全ての施設で行われており、「臨床実習の内容と分類」および「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン」は活用されている。令和6年度より、歯科医師法の改正により、Student Dentistの称号が与えられること、さらに診療参加型臨床実習において実施できる歯科医療行為の拡大が期待できることから、改訂は必須である。

✓ General Dentistとしての能力を涵養する学修項目を追加

研修指導歯科医から一口腔単位で口腔内を評価して、疾患発現の原因やプロセス、悪化因子となるリスクを抽出して、「総合治療計画の立案」に繋げる教育を含めて欲しいという意見が得られた。患者中心の歯科医療を実践するために、臨床推論、歯科での検査、総合治療計画の立案能力などの項目を新に設ける必要があるか検討を要する。加えて、現場では医学的知識の強化が求められている。

アンケート調査からの提言②

✓ プロフェッショナリズム、生涯学習の涵養、科学的探求の教育

平成28年度改訂でコアカリに新たに示された能力であるが、これに関して修得度が低いと感じる指導歯科医が多い。これらは、6年間を通じて学修する能力であり、らせん型学修が必要である。Good practiceを示すなど、各大学に取り組む土壌を提供することが大切である。

✓ 学修評価を念頭に入れた学修目標の設定

学修評価の中に合否制が含まれるものがある施設が見受けられる。コアカリでは目標への達成度を明確に示し学生へフィードバックすることにより、学修の達成度が高まる。そのことから、コアカリにおいては、最終的にすべての学生の目標への達成度が評価されることを念頭に置き、評価可能な内容、記載とすることを考慮する必要がある。

✓ グローバル化(歯科英語教育)への対応

歯科医学・歯科医療英語の講義は、大多数の施設で行われているが、一方で英語での授業は過半数しか行われていない。オンラインを用いた教育も可能になっていることから、歯科英語教育をコアカリ中に含めるか検討する必要がある。

✓ 新型コロナウイルス感染症に対する対応等の感染症教育

感染症対策の歴史を踏まえながら、感染症の疫学の意義など感染症の基本的知識や感染予防の技能の学修について議論を深め無ければならない。



一般社団法人
日本歯科医学教育学会
Japanese Dental Education Association

ご清聴ありがとうございました。

報告書のURL:

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/mext_01484.html